

附属養護学校における地域人材を活かした教育の充実

—地域・学部と連携した授業づくり—

瀧 ひろ子*・岩切 昭仁*・永田 憲行*・岡野 満*

Improving School Education in Cooperation with Local Competent persons at
the School for Mentally Handicapped Children Attached to Kumamoto University :
Lessons implemented in Cooperation with Local community and the Faculty of Education

Hiroko TAKI, Akihito IWAKIRI, Noriyuki NAGATA and Mitsuru OKANO

はじめに

熊本大学教育学部附属養護学校では、ここ数年間「共に育む教育を求めて」のテーマを掲げ、保護者をはじめ各方面の専門家等の多くの関係者と共に児童生徒の成長・発達を支援していくこと、また、児童生徒を取り巻く地域社会と共に、支援のネットワークを整えていくことを基本姿勢として研究を推進してきた。吉田(2002)は「学校という限られたスペースの中で全ての学習を自己完結型に進め、このための条件整備を図っていくことは困難である。むしろ地域の様々な協力を得て、効果的な学習活動を展開していくことが重要である。」また「学校が地域の中で様々な協力を得ていくためには、はじめに学校が自ら教育活動を公開し、また情報を積極的に発信していく必要がある。(中略)様々な機会や方法を通して理解推進を深めながら、他方では、地域社会に対する期待を明確に伝え、ここに協力をいただける地域社会の資源を開拓していく必要がある。例えば、地域の関係諸機関との連携、ボランティア、介護等体験の学生に対する継続的な支援要請、大学のサークルとの連携等がある。」と述べている。

その一環として本校小学部では平成11年度より地域の人材を学校に招き、児童にとって魅力ある教育活動を展開する生活単元学習「作ろう、遊ぼう、黒髪の名人さん」に取り組んでいる。この学習では本校教育や児童の理解といった地域への啓発も含まれている。

平成11～16年度までは本校の所在する熊本市黒髪4町内の老人会や婦人会等の協力による学習、それに加えて平成15年度からは熊本大学教育学部の教官や学生の協力による学科毎の専門性を活かした学習を進めてきた。ここではその活動内容について平成

15年度の6月、9月の実践を報告する。

実践の目的

- 地域人材の活用を通し、児童の興味・関心の拡大を図り、意欲的態度を育成する。
- 地域の中で障害児教育や本校児童の理解・啓発を推進する。

黒髪4町内と連携した実践

地域の人材活用として、児童の興味・関心や新たな経験を期待できる活動内容を教師が考慮し、情報を集めて平成11年度より黒髪地区の様々な特技や趣味をもった個人やグループに協力を呼びかけ学習に参加依頼してきた。これまでの活動内容は表1の通りである。

表1 「作ろう、遊ぼう、黒髪の名人さん」活動内容

平成11年度：竹細工・紙すき・クッキー作り
平成12年度：お手玉作り・紙すき・クッキー作り
平成13年度：郷土料理・立田山散策・3B体操
平成14年度：郷土料理・立田山散策・盆踊り
平成15年度：グランドゴルフ・郷土料理・踊り

1. 実践の方法

- 5月初旬黒髪4町内の自治会長宅において、過去4年間の経過と今年度地域と共に取り組みたい学習についての説明及び今年度の協力を依頼する。
- 5月中旬、6月2日からの「作ろう、遊ぼう、黒髪の名人さん1」の学習開始に向けて、児童に適した活動について教師で検討し、グランドゴルフ、郷土料理、踊りの3グループを決定する。
- 学習に向けて自治会長には学校長名の公文を持

* 附属養護学校

参、グループの代表者への声かけ依頼と共に学校の方からも直接グループの代表者に電話をして、6月の学習の参加依頼をする。

- 6月中旬黒髪4町内校区青少年育成協議会に小学部主事が参加し、本校の年間行事や小学部の年間学習計画等の説明を行い、併せて学習参加へのお礼を述べる。
- 学習の様子を地域に知らせるため「名人さん便り」を3回作成し、町内の回覧板を通して配布する。

2. 実践の経過

生活単元学習「作ろう、遊ぼう、黒髪の名人さん1」
 学習期間：5月30日（金）～20日（金）
 10:00～11:30（16日間）
 学習計画は表2に示すとおりである。

(1) グループ選択会

- 今回の学習では、「グランドゴルフ」「郷土料理」「踊り」の3グループに分かれるために、事前に保護者にアンケートを配布し、第2希望まできいた。
- 5月30日（金）の午後、ビデオや実演をしながら教師が各グループの紹介をした。その後児童が一人ずつ希望のグループに写真を貼った。
- 放課後、児童本人と保護者の希望を考慮し、

人数の調整を行った。児童本人の希望を優先した。

(2) 顔合わせ

- 6月2日（月）学習初日、児童へのグループ発表と名人さんの自己紹介を行った。
- 各グループに分かれて、改めて名人さんと児童双方の自己紹介や記念撮影等を行った。

(3) グループ毎の活動

<グランドゴルフグループ>

参加者：黒髪4町内「グランドゴルフ」グループ
 （6～10名）晴天時のみ交代で参加
 児童6名，教師2名

活動内容については、表3・写真1に示す通りである。

<郷土料理グループ>

参加者：黒髪4町内「郷土料理」グループ
 （4～6名）週1回交代で参加
 児童6名，教師3名

活動内容については、表4に示す通りである。

<踊りグループ>

参加者：黒髪4町内「踊り」グループ
 （4～5名）交代で毎日参加
 児童5名，教師2名

活動内容については、表5に示す通りである。

表2 「作ろう、遊ぼう、黒髪の名人さん1」学習計画

日	曜	グランドゴルフ	郷土料理	踊り
5/30	金	グループ選択会		
6/2	月	名人さん顔合わせ・各グループ毎打ち合わせ		
3	火	小学部前庭で3ホールプレイ	買い物（子飼商店街）	踊り
4	水		まめだんご作り	踊り・お面作り
5	木		活動紹介の掲示物作り	踊り・うちわ色塗り
6	金		まめだんご作り	
9	月	↓	買い物（子飼商店街）	
10	火	ロケット公園で5ホールプレイ	白玉だんご作り	
11	水		おひめさんだんご作り	↓
12	木		活動紹介の掲示物作り	踊り・掲示物作り
13	金	↓	おひめさんだんご	踊り・うちわ仕上げ
16	月	小学部前庭でプレイ	買い物（子飼商店街）	踊り
17	火	体育館でプレイ	白玉だんご作り	老人ホーム訪問準備
18	水	体育館でプレイ	うずまきだんご作り	老人ホームで踊りの披露
19	木	パーティー準備（プログラム作り・会場設営）		
20	金	名人さんありがとうパーティー		

表3 「グランドゴルフ」グループの活動の様子

学 習 活 動
○1週目、名人さんとペアを組み、小学部前庭で3ホールプレーした。
○2週目、名人さんがいつも行っている近所のロケット公園で5ホールプレーした。
○3週目は雨が多く体育館でルールを変えてプレーをした。
○子どもたちの意欲を高めるため、チャンピオンとホールインワンのメダルを準備した。
学 習 の 様 子
○名人さんが子どもたちと一緒にスティックを握り、立つ位置を示したりして、子どもに応じたアドバイスがなされていた、スコアが伸びると名人さんがほめていた。
○名人さんのアイデアで子どもたちが一人で打った場合は、打数を2分の1にするルールを適応することで、どの子どもも優勝する機会を得ることができるようになった。
○ゴールの中にボールを入れるという分かりやすいルールや、優勝するとメダルがもらえるということで、子どもたちは張り切って参加していた。

表4 「郷土料理」グループの活動の様子

学 習 活 動
○名人さんが昔食べたという3種類のだんご作りを行った。
○1週目、豆だんご作り（小麦粉に大豆を入れ塩ゆでする）
○2週目、おひめさんだんご作り（さつまいもと小麦粉を混ぜ、ゆでて、きな粉をまぶす）
○3週目、うずまきだんご作り（さつまいも粉生地と小麦粉生地を重ねて巻いて蒸して切る）
○名人さんはつごうで週1回の参加だったので、参加がないときは、子どもと教師で近所の商店に材料の買い物や、だんご作り、活動の様子を知らせる壁新聞作りを行った。
学 習 の 様 子
○名人さん全員で話し合い、包丁を使わずに、遊びながら楽しくできあがるよう、丸める、伸ばす、ゆでる、ラップで包む、きな粉をまぶす等を含んだ内容が考えられていた。声かけや児童に合わせた適切な支援がなされていた。
○どの子どももほとんどの活動に、興味を示し、積極的に参加していた。特に丸めたり、伸ばしたりは、名人さんが丸めやすい大きさにちぎって渡し、丸めるときには子どもたちに見本を見せていた。子どもたちは粘土遊びのようにして楽しんでいた。
○ゆでるときは、こわごわと鍋にだんごを入れていたが、名人さんに教えてもらい、少しずつお湯がはねないように入れることが上手になってきた。
○できあがっただんごもおいしそうに食べていた。

表5 「踊り」グループの活動の様子

学 習 活 動
○名人さんの振り付けで4曲踊った。昨年踊りグループで踊った曲（ハリケン音頭、おさかな天国）、今年の新曲（ひょっこりひょうたん島、きのこの歌）を使用した。
○1～2週目は毎回踊った後、小道具作りをした。色を塗り、色紙を糊で貼り合わせたお面やうちわ等ができあがった。
○3週目は児童と名人さんと共に近所の老人施設に踊りの披露に行った。
学 習 の 様 子
○踊りの曲は子どもたちの意見も取り入れて、なじみのある曲を選び、名人さんが子どもが動きやすい振り付けを考えた。
○小道具作りも名人さんと一緒に行った。少しずつ道具が増えることで、踊りも賑やかになり、「次はさかな！」と子どもたちから次に踊る曲を選ぶ等、意欲的な表情が見られた。
○老人施設でも名人さんと一緒に訪問して、踊りや握手等のかかわりを通し、お年寄りの方と楽しいふれあいができた。



写真1 公園でグランドゴルフ

熊本大学教育学部と連携した実践

平成15年度より、本校において教育実習生や介護等体験に参加した学生を中心にボランティア登録を行っている。9月の生活単元学習「作ろう、遊ぼう、黒髪の名人さん2」では、大学の教官やボランティア登録した学生等の協力を得て学習を行った。

1 実践の方法

<教師で学習内容検討>

○平成15年9月8日から生活単元学習「作ろう、遊ぼう、黒髪の名人さん2」の学習が計画されているため、6月下旬、前回の「作ろう、遊ぼう、黒髪の名人さん1」の反省をもとに次の学習内容について検討を行った。その結果、今回熊本大学の人材を生かそうということになり、内容として科学遊び、音楽・造形遊び、お菓子作りが児童が興味を持ち意欲的に参加できそう

であるとの結論になった。

<大学教官へ相談及びボランティア登録者へ連絡>

- 7月上旬、児童の活動にあてはまる学科として上げられた熊本大学教育学部の理科・音楽科・美術科・家庭科の各教官に、本校の学習の趣旨を説明し、協力を依頼した。
- 大学の教官にこれまでボランティア登録している学生の名簿を渡し、その他にも個人的に協力してくれる学生がいないか、探して連絡の依頼をした。
- 本校からも、これまでのボランティア登録者へ連絡して、学習参加への意向をきいた。
- その後各学科の教官や協力できそうな学生とメール等で連絡を取り合い、メンバーを決定した。

<学生との打ち合わせ>

- 7月下旬、9月からの学習をスムーズに進めるため、本校において参加学生と本校教師で各グループごとに参加する日時、どのような活動内容にするか等の詳しい打ち合わせを行った。その後も学習の直前まで学習内容について電話やメールで細かに連絡を取り合った。

2 実践の経過

生活単元学習「作ろう、遊ぼう、黒髪の名人さん2」

学習期間：9月5日（金）～29日（月）

10:00～11:30（15日間）

学習計画は表6に示すとおりである。

表6 「作ろう、遊ぼう、黒髪の名人さん2」学習計画

日	曜	科学遊び	音楽・造形遊び	お菓子作り
9/5	金	グループ選択会		
8	月	名人さん顔合わせ・各グループ毎打ち合わせ		
9	火	空気砲・空気ロケット	絵の具で手形・足形	ミルフィーユ
10	水	ホバークラフト	ゲーム・鑑賞・リズム	ミルフィーユ
11	木	空気砲・空気ロケット	音遊び、音を絵で表現	クリームパフェ
12	金	空気砲・空気ロケット	音遊び、音を絵で表現	クリームパフェ
16	火	スライム	紙粘土作り	オムレツケーキ
17	水		歌・ゲーム・マラカス作り	クレープ
18	木		歌・ゲーム・太鼓作り	クレープ
19	金	スーパーボール	歌・ゲーム・シャボン玉	チーズ白玉
22	月	シャボン玉	紙粘土（色塗り）	チーズ白玉
24	水		歌・ゲーム	フルーツ白玉
25	木		歌・ゲーム	フルーツ白玉
26	金	パーティー準備	プログラム作り・会場設営	
29	月	名人さんありがとうパーティー		

(1) グループ選択会

- 夏休み明けすぐに保護者に学習内容と選択会について連絡をした。今回は親子で話し合い選択会当日にグループの希望をきく旨を伝えた。
- 9月5日(金)の午後より、親子選択会を行った。この日も各グループの代表の学生が参加して実演での紹介を行った。この日に参加できない場合は、事前にビデオで収録して、内容紹介をした。
- 全ての紹介が終わった後、親子で話し合い第2希望まで決め、顔写真を貼った。
- 放課後グループ決定の検討会を行ったが、人数調整ができたので全員第1希望のグループ分けとなった。

(2) グループごとの学習の様子

<科学遊び>

参加者：熊本大学教育学部理科 大学院生1名、
4年生2名、3年生8名、2年生1名、
教育学部 4年生1名 合計13名
2～4人ずつ交代で毎日参加
児童6名、教師2名

活動内容については、表7・写真2に示す通りである。

<音楽・造形遊び>

参加者：熊本大学教育学部音楽科 大学院1年生
3名、3年生4名、2年生1名
美術科 2年生4人 合計12名
3～4人ずつ交代で毎日参加
児童5名、教師2名

3週間を音楽の活動日、造形の活動日、音楽・造形合同活動日に分けて学習を展開した。

活動内容については、表8・写真3に示す通りである。

<お菓子作り>

参加者：熊本大学教育学部家庭科 2年生5名
1～3名が交代で毎日参加
児童6名、教師3名

活動内容については、表9・写真4に示す通りである。

実践の成果と考察

平成15年度の地域人材を活用した学習を通してみると、黒髪4町内の名人さんは、年輩の方の落ち着いた安心感のある授業であり、学生名人さんの場合は元気で若々しい雰囲気での授業が展開された。双方ともそれぞれのよさがあり児童にとってもよい影響があったと感じている。

1 黒髪4町内名人さん参加の学習成果

黒髪4町内からはこれまで学習に5年間の協力があり、本校からも地域の会合等に出席し連携を深めている。そのため今回の学習参加も快く引き受けて下さり、本校の学校評議員である自治会長には町内全体に本校への協力を呼びかけていただいた。

学習においては、ほとんど毎日地域の方々との参加があり、学習の準備、展開、児童への適切な支援がなされていた。子どもたちもその場の暖かな雰囲気や安心したように、授業に意欲的な参加が見られた。

「作ろう、遊ぼう、黒髪の名人さん1」でのアンケートには、次のような名人さんの思いや感想、要望等が書かれていた。

○2日目から、子どもたちの見事なホールインワンに驚きました。自分一人の力で方向なんて構わず、何回も何回もボールを打つ姿に感動しました。全員で楽しんだグランドゴルフでした。
(グランドゴルフグループ)

○この度は、このような機会を提供していただきまして、誠にありがとうございます。おだんご作りを通して、一人一人の子どもさんたちと触れ合うことができました。今度はどんなだんごを作ろうかと私たちの方も楽しみながら考えさせていただきました。一人一人の特徴を考慮しながら、作る過程の中でやりたいという気持ちを引き出すことができるよう、さらに工夫したいと思っております。何より子どもさんたちが「おいしい」と喜ばれる笑顔が私たちも嬉しい限りです。またお会いできる日を楽しみにしております。(郷土料理グループ)

○今回誘われて参加しました。子どもさんたちと踊ったり、絵を描いたり楽しいひとときを過ごすことができ、優しい気持ちになって家に帰ることができました。黒髪の同じ町内で老いも若きももっと交流を持ちたいです。そして構えなないで優しく接する心を育てたいです。これからも時間の許す限り交流の中にとけ込んでいきたいと思っております。(踊りグループ)

このように、参加した方がいかにして児童が喜んで参加できるかと気を配り、グループの中で話し合いをしたり、新たなメンバーを誘って来られたりすることもあった。

2 熊本大学教育学部名人さん参加の学習成果

熊本大学の名人さんも活動において、事前の教材教具の準備・授業の展開等と全て中心となって進めた。教師はサブになり授業が円滑に進むようアドバ

表7 「科学遊び」活動の様子

1週目 「空気を使って遊ぼう」(4回)	
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○「ホバークラフト」(1回): 体育館で空気圧で動くホバークラフトに交代で一人ずつ乗った。 ○「空気砲」(3回): 両手で片方穴の空いた段ボールを叩いて、ろうそくの火を消す、キャラクターの絵のついた9枚のカードを倒す、傘袋のロケットを飛ばす等を行った。 ○「空気ロケット」(3回): 足でポンプを踏んで発泡スチロールのロケットを飛ばした。
学習の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○「ホバークラフト」は名人さん3人で操作し、子どもたちに一人ずつ声かけしながら動かしていた。みんな歓声を上げながら喜んで乗っていた。 ○「空気ロケット」は力を入れて踏むことが、少しずつ上達してきた。これも好評で順番が来ると急いで行って、何度も踏んでいた。 ○「空気砲」は段ボールの叩き方でカード等が倒れにくいこともあり、途中で子どもたちが飽きることもあったが、名人さんが毎回、的になる物を工夫してきたため、子どもたちの参加がよくなった。途中で登場した「傘袋のロケット」も新しいアイデアで子どもたちは意欲的に飛ばしていた。
2週目 「スライムを作ろう」(5回)	
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○「スライム」(3回): 水・洗濯糊・絵の具・ほう砂飽和溶液を入れ、しっかりかき混ぜてゼリー状ものを作って遊んだ。 ○「ペットボトルスライム」(1回): ほう砂飽和溶液の量を増やし、柔らかくして2本のペットボトルに入れたものを作って遊んだ。 ○「スーパーボール」(1回): 糊を化学糊に変えて飛び跳ねるボールを作って遊んだ。
学習の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○初日に名人さんが作り方を示したとき、みんな真剣に見ていた。名人さんと共に子どもたちは材料を一生懸命混ぜて作っていた。2回目からは、「一番水、2番糊」と自分から言いながら作る子どももいた。できあがったスライムを丸めたり伸ばしたりちぎったりして、楽しそうに手の中の冷たい感触を味わっていた。 ○「ペットボトルスライム」も好評で何度もひっくり返して遊んでいた。 ○「スーパーボール」は作った後の遊び方が子どもたちにはやや難しく、楽しく遊ぼうと名人さんが道具を持ってキャッチしたりいろいろ工夫をしていた。
3週目 「シャボン玉をしよう」(3回)	
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○材料は、食器洗い洗剤・洗濯糊・水を調合してシャボン玉液を全員で作った。 ○ストロー、針金の輪、糸とストローの四角い枠、ピストル型、筒、剣のような巨大シャボン玉を作る道具等を使った。 ○教室で作り、いろいろな道具を使って小学部前庭等で遊んだ。
学習の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○名人さんの周りに集まり、大きなたらいに全員でシャボン玉液を作った。名人さんから手渡された材料を子どもたちは交代で入れてかき混ぜた。 ○シャボン玉を作る道具は、子どもたちの反応に合わせて名人さんが毎日違う種類を持参した。子どもたちは自分の気に入っている道具を持って遊んでいた。名人さんが作るシャボン玉をじっと眺めて楽しんでいる子どももいた。



写真2 科学遊び「スライム」



写真3 音楽遊び「きしゃぽっぽ」

表8 「音楽・造形遊び」活動の様子

音楽遊び (8回)	
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○歌・リズム遊び (自分の名前, 好きな食べ物等に合わせてタンバリンを叩く, リズムに合わせてボールを渡す.) ○ゲーム (「かもつれっしゃ」, 「なべなべそこぬけ」) ○シャボン玉 (ゆっくりした曲に合わせてシャボン玉を飛ばす) ○模倣遊び (動物の絵を見てまねながら歌を歌う. 「ぞうさん」「かえるのうた」等) ○鑑賞 (名人さんの歌やリコーダー演奏を聴く) ○楽器遊び (マラカス・太鼓などを作ってみんなで演奏する.) ○「貼り絵をしよう」(美術科と合同授業): 音楽を聴きながら色を塗り, 塗った物を破って, ぶどうやきのこの貼り絵を作る.
学習の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○名人さんたちが事前に全日程の活動計画を作成し, 中心となって活動を進めていった. ○名人さんは, 最初子どもたちが関心を示さないとき対応に困ったようなところが見られたが, 回を重ねる毎に子どもたちに積極的にかかわっていく様子をよく目にするようになった. 笑顔でやさしい声かけがあり, 子どもたちも名人さんにすぐ慣れて, 生き生きと活動することができた. ○全般的に活動内容も子どもたちの興味を引くものであったので, 60分間を飽きることなく楽しんでいた. ○楽器遊びでは, プラスティックの容器に大豆・小豆・米を入れてマラカス作りをした. それができると「世界中の子どもたち」の曲に合わせて名人さんが名前を呼び, 子どもたちはそれに合わせてマラカスを振って笑顔で楽しそうに答えていた.
造形遊び (3回)	
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○「絵の具を使って絵を描こう」個人作品・共同作品 (広い用紙にクレヨンやポスターカラーを使ったダイナミックな絵) ○「紙粘土で好きなものを作ろう」(人や動物の形, 手形等)
学習の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○絵の具を使って絵を描くことや紙粘土で好きなものを作ることは, ほとんどの子どもが関心を示し, 集中して取り組むことができた. ○名人さんは子どもたちが自由に描いたり, 作ったりするとき, 子どもたちのそばで声をかけたり, 一緒に手を添えて作品を作ったりして, かかわりを持っていた. ○活動が終わった後も自主的に教室に子どもたちと行き, 手洗い等の手伝いをしていた. 子どもたちも授業が終わってからも, いつまでも名人さんと一緒にいたい様子だった.

イスをしたり, 児童の支援を行ったりするという立場で参加した。

学習が始まると児童もすぐに学生名人さんと仲良くなり, ほとんどの活動に積極的に取り組んでいた。児童にとっても科学遊び, 音楽・造形遊び, お菓子作りと今まで経験していない内容にも触れ, 新たな興味・関心の高まりが見られた。

また, 今回は学習中に保護者の参観や参加があった。一緒にお菓子を作ったり, 科学遊びでは参観後, 名人さんに作り方を詳しく聞いて家庭で材料をそろえ, 兄弟や近所の子どもと共に「スライム」を作って遊んだという報告も受けている。

今回参加した学生は, 大学院生や学部生で, 中には1・2年生でまだ教育実習に行っていない人もい

た。学習内容について夏休みに教師と具体的な打ち合わせをしたが, 直接児童とかかわっていなかったため, 不安も大きかったようである。しかし交代で毎日主体的に学習に参加し, 日々児童とかかわりを深めるうちに, 上手にコミュニケーションが取れるようになってきた。ここでも今後の参考にとアンケートを取ったが, 授業において悩んだこと等が正直に綴られていた。

○今回は楽しい体験をさせていただいてありがとうございました。私たちがおもしろいと思うことと子どもたちがおもしろいと思うことは, 違うときもあるというのを深く感じました。動きが大きいものや手触りがよいもの等への興味・関心が高いのでどうすればよいかと一生懸命考え, 準備し,

表9 「お菓子作り」活動の様子

1週目	
学習活動	<p>「ミルフィーユ」(2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カスタードクリームを作る。 ○電動泡立器を使って生クリームを作る。 ○フルーツ(バナナ・みかん)を切る。 ○クラッカーでカスタードクリームをサンドにする。 ○その上に生クリーム、フルーツ、ココアを乗せて盛りつける。 <p>「クリームパフェ」(2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カスタードクリームを作る。 ○電動泡立器を使って生クリームを作る。 ○フルーツ(バナナ・みかん)を切る。 ○ビスケットをつぶしカップに入れる。 ○その上にカスタードクリーム、生クリーム、フルーツ、ココアを乗せて盛りつける。
学習の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○材料等は教師が事前に準備したが材料の計量等は名人さんに依頼した。主な活動については、名人さんがレシピを持参した。 ○子どもたちは盛りつけ以外は、フルーツを切る・クリームを作る等のグループに分かれて活動した。名人さんは主にカスタードクリーム作りのグループを担当した。 ○各グループでできるだけ、道具の準備や後片づけを行った。 ○保護者の参観があり一緒に調理を行った。子どもたちも喜んで参加していた。
2週目	
学習活動	<p>「オムレツケーキ」(1回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電動泡立器を使って生クリームを作る。 ○フルーツ(バナナ・ぶどう)を切る。 ○オムレツの生地を作り、焼く。 ○焼き上がったオムレツに生クリーム、フルーツ、ココアをはさんで二つ折りにする。 <p>「クレープ」(2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電動泡立器を使って生クリームを作る。 ○フルーツ(バナナ・ぶどう)を切る。 ○クレープの生地を作り、焼く。 ○焼き上がったオムレツに生クリーム、フルーツ、ココアを包む。
学習の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○2週目になると、活動のグループ分け、調理、全員で盛りつけ、会食、掃除という流れが定着し、自分から道具を取りに行き取りかかる姿も見られるようになった。 ○オムレツやクレープの生地を焼くときは、ひっくり返すのが子どもたちだけでは難しく、名人さんが手伝っていた。生地が初め固めだったので、薄めに焼くようにしたら、子どもたちも包みやすく、柔らかくて食べやすいようにできた。 ○名人さんは、活動全体の様子を眺めながら、必要な場面で子どもたちの支援をしたり、使い終わった食器を洗ったりする等して動いていた。
3週目	
学習活動	<p>「チーズ白玉」(2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○フルーツ(りんご・みかん)を切る。 ○生地をこねる(だんご粉・クリームチーズ・牛乳) ○生地を丸めて、ゆでる。 ○できあがっただんごをすくって冷やす。 ○きな粉の味付け、黒砂糖のシロップ作り ○カップに冷えただんご・フルーツを入れ上から、きな粉やシロップをかける。 <p>「フルーツ白玉」(2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○フルーツ(りんご)を切る。 ○生地をこねる(だんご粉・牛乳) ○生地を丸めて、ゆでる。 ○できあがっただんごをすくって冷やす ○きな粉の味付け、黒砂糖のシロップ作りをする。 ○カップに冷えただんご・フルーツを入れ上から、きな粉やシロップをかける。
学習の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○だんごを丸める活動は子どもたちが得意とする活動であった。ゆであがるのが待ちきれずに鍋に入れてすぐのだんごをすくってしまう子どももいたが、みんなで数を数えながら鍋の周りに座って待つようにすると、交代ですくうことができた。 ○全員分平等にだんごやフルーツが行き渡るよう、個数を数えながら協力して盛りつけが行えた。 ○3週目になり名人さんたちもずいぶん慣れて、子どもたちが上手にできると、とても嬉しそうにほめていた。

実行することはとても大変だったのですが、とても充実した楽しい時間を過ごすことができました。
(科学遊びグループ・理科4年生)

○毎回子どもたちと音楽を通して楽しくかかわることができ、名人さんとして参加できたことをとても嬉しく思っています。子どもたちがみんなかわいくて毎日会うのを楽しみにして養護学校に来ていました。活動の内容や準備など私たちなりに考えていたのですが、不十分なところもあり担当の先生方にはとても助けてもらいお世話になりました。またこのような機会があれば、私は是非参加したいのでよろしくをお願いします。

(音楽・造形グループ・音楽科3年生)

○最初は軽い気持ちでボランティアを希望しましたが、こんなに子どもたちと触れ合えるとは思っていませんでした。お菓子作りは好きですが、名人さんと呼ばれてどうなるんだろうと不安でしたが、先生方に親切に接していただきなんとかできました。子どもたちも生クリームの泡立てやクレープの生地を焼いたり、だんごを丸めて鍋に入れたり、すごく嬉しそうにやっていて、みんな素直でかわいくて一緒に作れて、とても楽しかったです。

(お菓子作りグループ・家庭科2年生)

3 考察

本校において学校に地域人材を招くという取組を行ってきたが、具体的な結果により地域人材活用の有効性が次のような点で検証された。

- 学校内の環境や教師のかかわり等だけでは得られない、地域人材の豊富な経験や知識、特技に基づいた学習活動を展開することができた。
- 地域や大学生等の新たな人材を見出していく中で、いつでも子どもの興味・関心に応じた特色ある学習内容を選択し、参加依頼をしていくことで、継続的・発展的な学習を行うことができた。
- 今回のように学習への保護者参加があることにより、家庭への余暇活動への広がりが見られた。
- 参加者の様子やアンケート結果から、学習に参加した地域の方々も養護学校の教育や児童生徒への

理解が深まった。

このように地域の特色ある人材を学校教育に取り入れることは、子どもたちの興味・関心を高めるだけでなく、専門的であり、質の高い学習活動を展開することができることが分かった。また、地域の方にとっても、この取り組みが本校教育の理解の場にとどまらず、学習展開の協力者となり、子どもたちの支援者となって共に活動するという積極的な思いをもたらすことができたと考える。

今後も黒髪4町内や熊本大学をはじめとする地域の方々とともに連携を深め、新しい人材や学習活動へのすばらしいアイデアを提供して子どもたちの成長を共に支えていただきたいと願っている。それと共に本校も地域に貢献できる学習活動も取り組んでいきたいと考えている。



写真4 お菓子作り「生クリーム」

引用・参考文献

- 1) 吉田昌義 (2002) : 論説「障害に配慮した地域における体験活動の状況や今後の課題」、『特別支援教育』No. 8, 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課
- 2) 熊本大学教育学部附属養護学校 (2002) : 『研究紀要』24「共に育む教育を求めて」
- 3) 熊本大学教育学部附属養護学校 (2004) : 『研究紀要』25「共に育む教育を求めて～家庭や地域と連携した教育の充実と地域における養護学校のセンター的役割の追求～」